

# “いつくしき学び舎”



誇らしきわが学び舎

かぐわしき

永久の学び舎

(昭和47年以降～現在)



## 階段校舎の思い出

平13卒 櫻井 恵一

私たちにあって階段校舎は青春の場であった。あのですばらしい校舎がなくなってしまうのは非常に悲しい。階段校舎がなくなると聞いて私は何度、壊されていく校舎に立てこもる夢を見たことか。それくらい愛着深い校舎である。なんといつても設計が独特で、「いつくしき学び舎」であったが、戦艦が停泊しているかのような重厚な男性的外見の校舎は設計ミスか、夏暑く冬寒い校舎であった。私は一年の頃天窓からの直射日光にさらされ補習中気分が悪くなった経験がある。(因みに東大の設計らしいが大先端研や京都駅はどことなく似ている)。そしてなんとと言っても、年中24時間出入りのできる「朝日らしい」校舎であり、朝日祭の折、校舎に泊まり込みで作業している学生がいかに多かったことか。これを今も大学の友人に自慢している。この解放感と学生の「自主自律」に任せた感じが朝日らしさの象徴であった。また、チャイムではなくサイレンなのは趣があ

り、サイレンの余韻までは入室できた為、よく外階段を駆け上がった。実は私は校舎を「修理」したことがある。時効と思うが、1年の時、教室のドアのしまりが悪かったので友人のI君達とドアを削って直した。また、新幹線のトンネルのコンクリがはがれていた同じ頃、朝日でもコンクリが落ちていたので打音検査(一階)を前出のI君達としてるとコンクリが落ちたこともあった。直接校舎の安全性に疑問を投げかけた鳥取西部地震では、新見北高校よりもたかさんのガラスが割れ、コンクリが転がった。友人のK君がそれをRSKに報告し、映ってしまった。あの校舎は十分に欠陥品である。しかしそれが故、今も話題に事欠かず、友達に自慢でき、卒業して尚愛着が湧いてくる「誇らしき我が学び舎」なのであった。これからも私は友達にあのへんでこですばらしい校舎を自慢しつつけていくだろう。私達の心の中での校舎は「かぐわしき永久の学び舎」として永遠に生き続ける事だろう。